

日本英語教育史学会 第291回 研究例会

日時：2023年 1月 7日（土）14：00 ～ 17：00

オンライン開催：申込方法については、学会ウェブサイト（<http://hiset.jp/>）内の「オンラインによる研究例会 参加方法」をご参照下さい。

○ 研究発表

石橋幸太郎の英語教育論：国語教育との連携を中心に

証木 貴之 氏（北海学園大学）

【概要】石橋幸太郎（1898-1979）は戦後の英語教育を代表する研究者である。しかしながら、石橋の英語教育論を検討する研究はほとんど見られない。今日の視点から石橋の英語教育論を見直したとき重要なのは、石橋が1960年の時点で国語教育との連携を提唱していた点である（「外国語教育と国語教育」西尾実・時枝誠記監修『実践講座国語教育 第1巻』牧書店）。東京高等師範学校で岡倉由三郎の教えを受けた石橋は、英語教育の教養的価値を重視した。さらに、教科のもたらす教養を遠心的教養（目を外に向け視野を広げる教養）と求心的教養（目を内に向け自己を深める教養）とに分け、英語教育の与える教養は遠心的教養、国語教育の与える教養は求心的教養であるとした。このことから石橋は、英語教育と国語教育は相補的關係にあると考え、両者の連携を提唱したのである。以上の点について、具体的な資料に即して考察を行いたい。

○ 自著を語る

広川由子著『戦後期日本の英語教育とアメリカ：新制中学校の外国語科の成立』（大修館書店，2022年3月）

著者：広川 由子 氏（千葉県立保健医療大学）

【概要】本書は、アメリカ対日英語教育構想と戦後日本の英語教育改革との関係を、新制中学校における外国語科の成立事情の解明を通して明らかにすることを目的としている。新制中学校の外国語科の成立を、占領下の産物といった狭い意味で捉えるのではなく、20世紀前半に起こった英語の世界的拡大傾向を読み取りながら、一連のアメリカの対日英語教育構想の軌跡をたどりつつ、戦前・占領期・講和後という三つの時代を俯瞰する手法を採用し、立体的に描出する。

指定討論者：孫工 季也 氏（京都大学大学院〔院生〕）

参加費：無料

問合せ：日本英語教育史学会 例会担当 reikai(at)hiset.jp (at)を @ に変えてください。